

交通安全ポスター原画コンテスト 表彰式開催 日本自動車会館

応募108作品の中から4作品が入賞

最優秀賞は福岡県在住の荻野佳子さん



入賞作品の前で記念撮影をする(左から)戸田選考委員、原さん、高山さん、李さん、永塚選考委員長

日 本自動車会館（入館14法人）は10月17日、東京・港区の同会館「くるまプラザ」会議室で交通安全ポスター原画コンテストの表彰式を行った。同コンテストは社会貢献活動の一環として2007年から実施されており、12回目を迎える今回は、9月10日の締切日までに108作品の応募があった。全応募作品は同月11日から会館1階のエントランスホールに展示され、入館法人の職員や来館者などによる投票結果を基に、選考委員会（委員長：永塚誠一日本自動車工業会副会長）にて4作品が入賞作品に選ばれた。最優秀賞に輝いたのは、福岡県在住の荻野佳子さんの作品で、賞金10万円と賞状が贈られた。

表彰式は「交通安全」をテーマにした、当会議所の第252回会員研修会に先立って行われ、最優秀賞の荻野さんは欠席したが、入賞された李多顯さん、高山結さん、原優風さんの3人が出席。永塚委員長から受賞者に賞状と賞金が贈呈されると、出席者から大きな拍手を浴びていた。永塚委員長による賞状・賞金贈呈の後、選考委員会委員で日本美術アカデミー理事の戸田吉彦氏が講評を行い、次のように

述べた。

「第1回目からこのコンテストにかかわってきましたが、今回は特徴的な傾向が見て取れます。1つは、最優秀作も含め『高齢者の事故防止のためには運転を卒業する時がやって来る』というメッセージの作品が多数提出されてきたことです。昨年は、自動車メーカー側の事故防止対策である『サポカー』について非常に多くの応募がありましたが、今年は、ドライバー側から事故を減らしていくという視点を持った作品が最優秀作品に選ばれました。

2つ目が、優秀賞3作品がいずれも飲酒運転根絶をテーマにしていることです。エントランスに展示している飲酒関係のポスターをみると、多くが学生などの若い人たちの作品です。これから社会に出る若者たちの『飲酒運転はしてはいけないことだと肝に銘じなければならない』という気持ちの表れではないかと考えています」

この後、李さん、高山さん、原さんの3人が受賞の喜びや作品コンセプトを述べて表彰式が終了し、続いて交通安全をテーマとした第252回会員研修会が開催された



永塚選考委員長（右）から受賞者の皆さんに賞金と賞状が手渡された



表彰式でコンテストの講評をする戸田選考委員（日本美術アカデミー理事）

入賞作品

《最優秀賞》

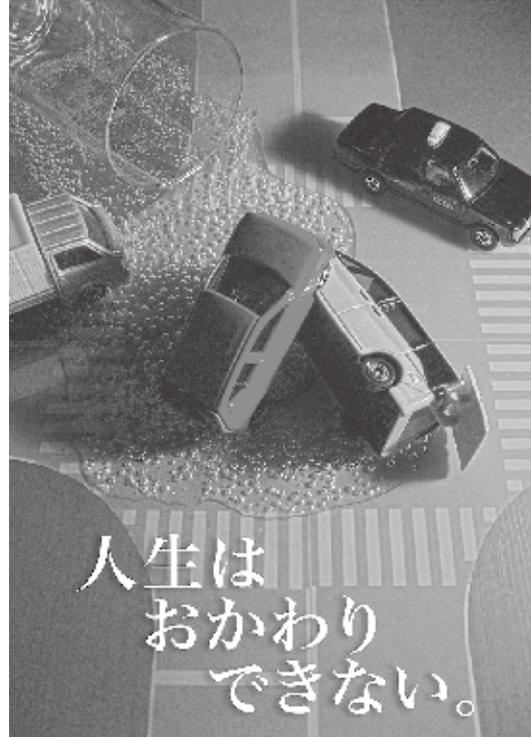
福岡県 荻野 佳子さん
タイトル「私たち、運転卒業しました」



作品コンセプト…昨今、高齢者による交通事故が増加している中、高齢者に自分が運転を続けられるかどうかについて自己判断を促すとともに、運転を辞めることは決して何かを失うことではなく、新たな「トライフックライフ」の始まりだということ、伝えられたらと考えました。

《優秀賞》

東京デザイン専門学校 李多顯さん
タイトル「人生はおかわりできない」



作品コンセプト…おもちゃのクルマを使い、飲酒運転をして事故が起きてしまった現場をイメージしました。ポイントは、グラスからこぼれているビールを使うことによって、おかわりは安易にできないということを表現しました。

《優秀賞》

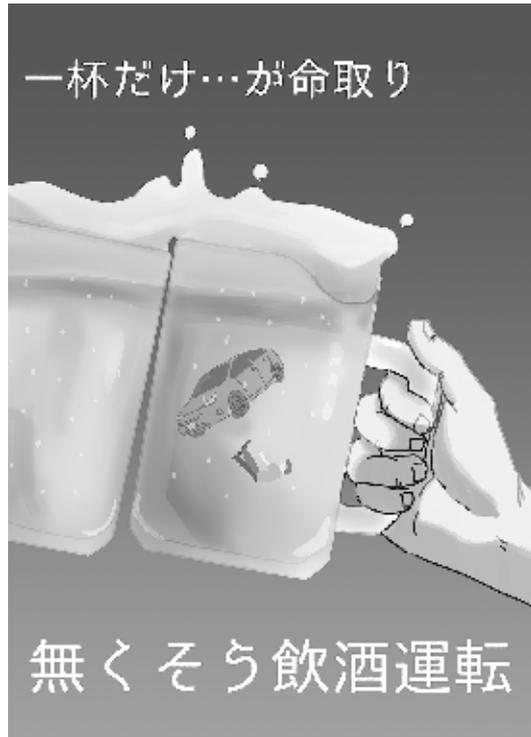
東京デザイン専門学校 高山 結さん
タイトル「酒に飲まれて人生水のアワ」



作品コンセプト…ビールの中に沈んでいくクルマを描き、「酒に飲まれた」状態で運転することの危険さを表現し、ただ一度の飲酒運転によって、自分自身の人生さえ台無し（水のアワ）になってしまふことをビールの泡から連想させるよう考えました。

《優秀賞》

東京デザイン専門学校 原 優風さん
タイトル「一杯だけ…が命取り」



作品コンセプト…「酒に溺れ死ぬ」をコンセプトに、飲酒運転の恐ろしさをブラックなユーモアに包んで作りました。一杯だけ…という軽い気持ちで一生涯をふいにしてしまう飲酒運転を軽く表現したくないと思い、少しトゲのある表現方法をとりました。